

一升壺の「びん爛」対応の替栓について ed.5.0

(080926-1002-1016-090202 -100115kit/ymm)

*「びん爛」替栓は、熱履歴後に正規の機能を発揮します。必ず、実ラインで評価テストを行った上でご採用ください。

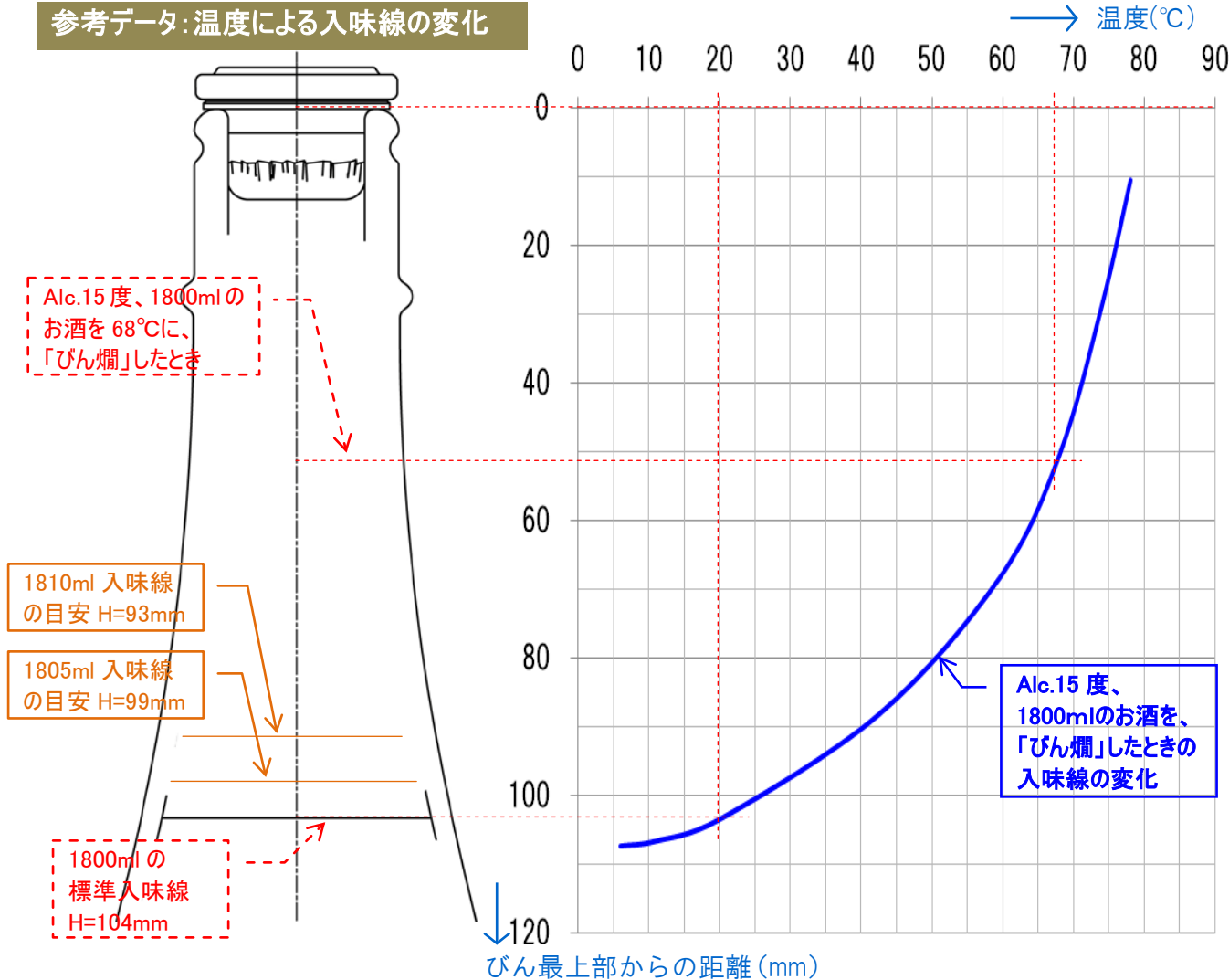
		「びん爛替栓A」:従来仕様	NEW! 「びん爛替栓B」:改善仕様	NEW! 旧 SCC「APR-7 改」仕様
基本構成		<p>多くのお客様にご採用いただいていましたが、「冬季に打栓圧が高い」、「許容温度域が狭い」、などのご指摘を受けることがありました。</p> <p>(従来タイプ)A タイプ</p> 	<p>打栓圧、耐熱温度域、開封感覚などを改善。天面が「アルミ」と「プラスチック」の2種があります。</p> <p>B-1 タイプ (天面アルミ)</p> <p>B-2 タイプ (天面プラスチック)</p> 	<p>旧・SCC 社の耐熱替栓(単一樹脂の最終仕様)の供給いたします。</p> <p>APR-7 改タイプ</p> 
	ご採用事例	<p>→「タイプ B」、または「APR-7」への変更をお勧めしています！</p>		
適応方式	シャワー殺菌	適応	適応	適応
	湯煎のびん爛	× (湯煎では抜栓が硬い。シャワー殺菌専用です。)	△～○: 抜栓がやや硬い (仮栓でなく、密封(冠頭を打栓)して湯煎可能)	× (湯煎では抜栓が硬い。シャワー殺菌専用です。)

一升壺の「びん爛」対応の替栓について ed.5.0

(080926-1002-1016-090202 -100115kit/ymm)

*「びん爛」替栓は、熱履歴後に正規の機能を発揮します。必ず、実ラインで評価テストを行った上でご採用ください。

参考データ：温度による入味線の変化



- 大手製壺メーカー3社の新壺の1.8リットル壺に、アルコール度数15度の清酒を入れた場合の、温度による入味線の変化を測定したグラフです。20°Cで104mmだった入味線は温度とともに急上昇して、68°Cでは50mm程度となりヘッドスペースには大きな圧力が形成されます。回収壺を利用される場合には、破壺に注意が必要です。
- **びん爛殺菌の実務ポイント：**
 - ✓ 入味線が104mmを超えないこと。(通常、104mmで容量は1800mlを僅かに超えます。)
 - ✓ 温度は68(～70)°Cを上限とすること。75°Cでほぼ替栓まで満量となり、破壺の危険があります。
 - ✓ 60°Cや55°Cなどの低温で時間をかけて処理することを推奨します。
- 実際には酒質やアルコール度数によって異なります。下記は条件別の許容量の目安です。
 - ✓ Alc.15度、最高温68°Cの最高許容量：1803ml
 - ✓ Alc.15度、最高温60°Cの最高許容量：1810ml
 - ✓ Alc.13度、最高温68°Cの最高許容量：1804ml
 - ✓ Alc.13度、最高温60°Cの最高許容量：1812ml
- 1.8リットル(一升)壺のヘッドスペース率は、約3.2%(59ml/1859ml)と非常に少なくなっています。720ml壺などで壺爛殺菌をされる場合には、ヘッドスペース率4.5～5%の壺を目安に選定してください。

(データや記述は、当社の実測などによる参考情報です。必ず実ラインで評価テストを行った上でご採用ください。)

一升壺の「びん爛」対応の替栓について ed.5.0

(080926-1002-1016-090202 -100115kit/ymm)

*「びん爛」替栓は、熱履歴後に正規の機能を発揮します。必ず、実ラインで評価テストを行った上でご採用ください。

(ご参考)当社社内の機能評価

	「びん爛替栓A」:従来仕様	NEW! 「びん爛替栓B」:改善仕様	NEW! 旧 SCC「APR-7 改」仕様
打栓圧 ○・・・25kg 程度 △・・・25～30kg 程度 ×・・・30～40kg	<ul style="list-style-type: none"> -10℃環境 △～× 0℃環境 ○～△ 10℃環境 ○ 	<ul style="list-style-type: none"> -10℃環境 ○～△ 0℃環境 ○ 10℃環境 ○ 	<ul style="list-style-type: none"> -10℃環境 △～× 0℃環境 △～× 10℃環境 ○～△
※打栓圧が高いと、打栓時の音が大きかったり、壺口割れなどのリスクがあります。 ※上記は当社試験による目安です。打栓機によって結果は異なります。			
温水シャワー後の抜栓感 ○・・・適度 △・・・柔らかい、または、硬い ×・・・収縮でやや不安	<ul style="list-style-type: none"> 60℃10分 ○ 65℃10分 ○～△ 70℃10分 △～× 75℃10分 ×(抜栓が、ゆるい) 	<ul style="list-style-type: none"> 60℃10分 ○ 65℃10分 ○ 70℃10分 ○ 75℃10分 ○(しっとり感、弾力感) 	<ul style="list-style-type: none"> 60℃10分 ○～△(抜栓が、かたい) 65℃10分 ○～△ 70℃10分 ○ 75℃10分 ○
※当社試験によるデータです。実際には温度ゾーン毎の積算効果、クールダウン条件、壺口などによって異なります。 ※必ず、実ラインでご確認ください。			
温水シャワー後の密封性能 (満量、横置きテスト) ○・・・漏れない △・・・やや不安	<ul style="list-style-type: none"> 60℃10分 ○ 65℃10分 ○ 70℃10分 △ 75℃10分 △(栓がゆるく、やや不安) 	<ul style="list-style-type: none"> 60℃10分 ○ 65℃10分 ○ 70℃10分 ○ 75℃10分 ○ 	<ul style="list-style-type: none"> 60℃10分 ○～△(抜栓が、かたい) 65℃10分 ○～△ 70℃10分 ○ 75℃10分 ○
※当社試験によるデータです。実際には温度ゾーン毎の積算効果、クールダウン条件、壺口公差などによって異なります。 ※前ページ記載の通り、 実際には 68(～70)℃を上限としてください。			
総合評価	○～△(タイプBに比べて)	◎	○(蔵の殺菌条件によって◎)
	<ul style="list-style-type: none"> 温度履歴後に抜栓が柔らかい傾向がある。(シャワー温度が高いと、収縮が大きいので) 逆にシャワー温が低いと収縮不足で抜栓が硬い。すなわち、所定のシャワー温度・時間でちょうど良い抜栓になるが、その許容範囲が広くない。 	<ul style="list-style-type: none"> 打栓圧が高すぎない。 シャワー温度許容範囲が広い。 温度履歴後に柔らかすぎなく、開封感しっとり。 (樹脂コストなどの関係で、価格がやや高い) 	<ul style="list-style-type: none"> 打栓時、抜栓時に、やや硬い傾向。 単一の樹脂であるメリット。 (引き継ぎの関係などで、価格がやや高い)
価格の目安	※従来の「タイプA」の標準的な販売価格に比した時の目安です。 実際の価格は、営業担当にご照会ください。		
対応単位	銘柄入れ印刷 ・ 汎用品としてケース単位で対応	銘柄入れ印刷 ・ 汎用品としてケース単位で対応	銘柄入れ印刷

(以上)